

大学名： 鳴門教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	加盟を希望する学校から相談がなかった。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	新制度で申請が再開された2021年12月以降、徳島県で1校、高知県で2校の合計3校から支援の相談・依頼があり、2022年3月・4月に各学校においてチャレンジ期間中の活動の方向性についてのアドバイスや、チャレンジ期間終了時に提出する書類の準備について説明を行なった。また2校においては教職員にユネスコスクールについての研修を行なった。 (4月に支援をした学校2校は、本来2021年2月に訪問予定であったが、コロナの影響により出張できない状況が続いたため、4月にずれ込んでしまった。)
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	加盟済みのユネスコスクールから相談(講演依頼や研修依頼)がなかった。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	徳島県内の小学校において、鳴門教育大学の留学生(大学院生)がオンラインにて小学校の児童と交流を行なった。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	愛媛県新浜市の小学校の活動を、JICA研修でアフリカ諸国の研修員に紹介した。他にも、UNESCOからの受託した東ティモールの研修では新浜市の学校2校でZoomを接続し、小学校の様子を紹介し、高校においてはユネスコ部の活動を紹介し、生徒とも意見交換(交流)を行なった。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	特になし
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	特になし
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることが	特になし

	できた。	
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	特になし
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	本来は JICA 研修などを通して日本の小学校等と国際交流を行い、ユネスコスクールになるとそのような活動が大学を通さずとも可能になることも広報する予定であったが、昨年度（この数年間）はコロナウィルスの影響で（ユネスコスクールではない）学校との国際交流がほぼ皆無の状態であった。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	特になし
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	特になし
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	特になし
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	ユネスコスクール支援担当者である私個人の授業では講義の中でユネスコスクールについて言及している講義がある。（環境（ESD や SDGs）についての授業を担当。） ただし、自分が実施している以外の授業内容は把握していないため、他の先生方がユネスコスクールにかかわる教育をしているかは不明である。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	特になし
	4. 自由記述	現在、学内（四国4県）でユネスコスクール支援を ASPUnivNet の活動として行なっているのは教員1名のみであり、支援に限界があるのが現状である。